☆ 学校教育目標　「自ら考え、行動できる児童の育成」

あじきだい

あじきくん
春バージョン

学校だより　R5.2.24(金)発行　No.39　栄町立安食台小学校　219名
URL：https://ajikidai-es.town-sakae.ed.jp　E-mail:ajikidai-es@town-sakae.ed.jp
※本校のセクハラ相談窓口は、嶋田教頭、久古養護教諭、安原教諭、千葉教諭です。　TEL 0476-95-0971

来年度に向けて

　現在学校では、来年度の教育課程の編成や年間の行事等について検討しています。来年度は、コロナ禍の学校生活から、感染リスクを引き下げながら教育活動の継続を可能とする、**新たな日常の実現を図るための学校生活**を考えていなかくてはなりません。また、本校では、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）も開始されます。

　この3年間のコロナ禍の学校生活の中で、制限されたことも多いですが、一方で、今まで慣例のように行われていたことが、必要なかったということも多くありました。

　来年度からは、この3年間の貴重な経験をもとに、**新たな学校生活ができるようにしたい**と考えています。そこで、以下の3点を大きな柱にしていきます。

① 学力向上（わかる授業）に向けての授業改善や行事の精選
② 子供たちのゆとり（遊び）の時間の確保
③ 教員の働き方改革の推進

　①については、改訂された学習指導要領が小学校で実施されてから3年経ちますが、コロナ禍の中で、この学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学びの実現」が十分にできなかったこと（特に対話）があります。また、学校現場がコロナ対応に追われて、学習指導要領の趣旨に沿った、教育課程や行事等の変更ができていない面も見られます。

　②については、コロナ禍による、子供たちの体力の低下やコミュニケーション能力の低下等への対応があります。また、個に応じた学びや活動の充実を図るための時間も必要です。

　③については、学校では、教員の働き方改革の推進が喫緊の課題となっています。しかし、中々進まない現状があります。課題となっている背景には、教員の長時間労働の問題、教員の休職者の増加、教員不足、教員の質の低下、教員志望者の減少、新しい指導方法への対応等、様々な要因が挙げられています。

　学校現場は、「する」ことが増える一方で、今まで「してきたこと」は、続けてきたという現状があります。例えば、教科だけでも、総合的な学習の時間、外国語科・外国語活動、道徳科と教える科目は増えてきています。また、その時代のニーズに沿って、情報教育、キャリア教育、環境教育…と、学ぶ内容も増えています（本校では、「心のバリアフリー教育」を、推進しています。）。

　スクラップ＆ビルドの考え方で、子供も教員も更に充実した教育活動ができるよう、**保護者・地域と学校が互いにパートナー**として、連携・協働していきたいと考えています。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。